

事務事業計画書兼評価表(A表)

1 事務事業に関する基本情報				令和	1	年度
事業番号	986		事業名	ミニSL博物館管理運営費		
担当課	産業観光課		担当係	商工観光室		
総合計画に最も関連ある施策	施策	5	活力ある産業づくり	連絡先	0858-72-0144	
	施策体系	3	観光の振興	事業区分	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続	
	主な事業	ミニSL博物館の管理・運營業務				
予算区分	款	6	商工費	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 八頭町 <input type="checkbox"/> その他	
	項	1	商工費			
	目	3	施設管理運営費	計画期間	開始	平成29年度
	事業	986	ミニSL博物館管理運営費		終了	—

2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載 全国の鉄道ファンや家族連れを中心とする観光客		
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載 ミニSLを活用した観光振興と地域振興		
事業の内容	事業の規模や業務量などを具体的に記載 館内に保管されているミニSLの維持管理や、土日祝日に開催されるミニSLの乗車体験の実施・運営		
事業の手段	どういう方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載 ①ミニSL博物館に係員を常駐させ、来客対応やミニSLの維持管理等を行う。 ②定休日である水曜日以外の日に開館し、館内のミニSLを常設展示する。 ③土・日曜日と祝日にミニSLの乗車体験会を実施する。		
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載 ミニSLの存在を広く知っていただき、併せて博物館への来館者や乗車体験の利用者が増加すること		
根拠法令等	3	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし	法令等名一 やずミニSL博物館条例

3 活動指標、成果指標

活動指標		単位	事業の手段を図るものさし
	A	日	ミニSL博物館の開館の日数
	B	日	ミニSL乗車体験会の開催日数
	C	人	ミニSL博物館の管理・運営のための従事者数
成果指標		単位	事業の成果、到達点を図るものさし
	A	人	ミニSL博物館の来館者数
	B	人	ミニSL乗車体験の利用者数
	C		
D			

4 コスト

区分		単位	H28年度	H29年度	H30年度		R1年度		R2年度
			実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	A	日		239	239	235	239	234	239
	B	日		106	100	111	100	111	100
	C	人		7	7	7	7	6	7
	D								
成果指標	A	人		16,664	8,000	5,948	9,000	6,181	1,000
	B	人		10,809	5,000	6,489	6,000	6,375	7,000
	C								
	D								
トータルコスト		千円		17,029	19,408	17,974	16,218	16,164	16,400
担当職員数		人		1.3	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
職員人件費		千円		10,400	10,400	10,400	10,400	10,400	10,400
事業費		千円		6,629	9,008	7,574	5,818	5,764	6,000
事業費財源内訳	国庫支出金(交付金・補助金)	千円							
	県支出金(交付金・補助金)	千円							
	地方債(借入金)	千円							
	事業収入(使用料・参加費等)	千円		2,555	2,270	1,271	1,545	1,294	1,600
	一般財源(単町費)	千円		4,074	6,738	6,303	4,273	4,470	4,400

事務事業計画書兼評価表(B表)

5 実施活動内容・成果(到達点)

令和 1 年度

実施活動内容・成果(到達点)	<p>実施活動内容(具体的に)</p> <p>平成29年4月1日に開館した「やずミニSL博物館」は、全国で唯一ミニSL車両を常設展示している施設であり、土日祝日には実際にミニSLに乗れる「乗車体験会」を開催している。国内外の様々な蒸気機関車をミニチュアサイズながら間近で観覧でき、展示車両は石炭と水で実際に走る構造となっている。不定期で「ミニSL機関士養成講座」を開催するほか、博物館やSLについて学べる「ミニSL博物館マスター制度」も実施している。</p> <p>成果(具体的に)</p> <p>平成29年4月に開館して以降、これまでに累計52,466人の利用があった。ミニSL車両の寄附が2台あったほか、バッテリーカーを1台購入したため、保有車両数は現在18両となっている。「ミニSL博物館マスター」制度にはこれまで約250名の方が参加し、「ミニSL機関士養成講座」にはこれまで36名が受講している。</p>
----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6 事務事業の評価

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
必要性 (町民ニーズ)	13	20	①必要性が高い	ミニSL博物館は晴天時だけでなく雨天時にも利用でき、実際にミニSLに乗車できるスポットであることから、子育て世代から壮年層までの幅広い年齢層に利用されている。「とっとり子育て応援パスポート」との連携も行き、パスポート利用による入館も多いことから、必要性は高いと言える。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
妥当性 (町が行わなければならないか)	13	20	①町が行わないといけない	平成29年4月に開館して以来、町直営での管理運営を行ってきた。博物館におけるスタッフ体制の確立や各種団体との連携等について開館当初から民間団体に委託することは困難であったため、現時点では町の直営が妥当と言える。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
効率性 (コスト削減の余地は無いか)	13	20	①効率的である	開館当初は、案内看板の設置や備品購入、ナチュラルガーデン整備等に支出を要してきたが、館内外の環境整備は一通り完了し、今後は維持管理に重心が移っていくことから、効率性が上がることが想定される。
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
緊急性 (他事業に優先し実施する必要があるか)	7	20	①緊急性が高い	新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されるなか、ミニSL博物館は十分な換気が可能で「三密」も回避しやすいことから、「新しい生活様式」に適した観光スポットと言えるが、県内外からも来客があることから、状況によっては一時休館等の対応も必要となる。
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
成果 (目的の達成状況)	7	20	①成果が上がっている	開館初年度の平成29年度は、メディアに大きく取り上げられたこともあって約27,000人の利用者があったが、平成30年度以降は話題性も落ち着いたため、利用者数が半分以下となり、入館料等の収入も減少している。
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	

一次評価	事業の方向性	点数	評価点合計	判定に至った理由
3	1、拡充する	80点以上	53	博物館内に常設展示されている車両は開館時よりも増加し、体験型素材も段階的に整備しているものの、利用者数や収入面で厳しい状況が続いていることから、館内コンテンツの充実や収入の向上を図る必要がある。今後は指定管理による運営も視野に入れ、業務の効率化も図っていく必要がある。
	2、現状維持	60～79点		
	3、改善・効率化し継続	50～59点	3	
	4、見直しの上縮小する	40～49点		
	5、終期設定し終了	30～39点		
	6、休止	20～29点		
	7、廃止	19点以下		

二次評価	事業の方向性	判定説明・意見
3	1、拡充する	ミニSL博物館は、手作りのミニSL機関車を保有する中村氏からの寄贈を契機として、町の観光振興・地域活性化を目的として整備した施設であり、ミニSL機関車等を常設展示する施設としては全国で唯一のものである。また、このミニSL機関車等は実際に走行・乗車することができる大変貴重なものであり、本町における新しい観光スポットとなっている。成果指標をみると、開館初年度である平成29年度は話題性もあって来館者が16,000人に達したものの、平成30年度・令和元年度はその半分以下の6,000人程度にまで落ち込んでいる。来館者や乗車体験者の確保・増加が一番の課題として挙げられるが、今後、若桜鉄道や大江ノ郷など町内観光スポットとの連携強化や県東部圏域としての観光事業の実施など面的な観光ルートとしての取組を引き続き進めるとともに、鉄道ファンや子ども連れ以外の来客をどう誘致していくのか、検討を行っていく必要があると考える。また、ミニSL機関車等の管理・運行には専門的な技術や知識が必要のため、現在実施しているミニSL機関士養成講座等の実施により、担い手の育成・確保にも積極的に取り組んでいただきたい。令和3年度からは指定管理の導入が予定されているため、民間事業者のノウハウの活用により、利用者数の増加やサービスの向上、経営の効率化につながることに期待したい。
	2、現状維持	
	3、改善・効率化し継続	
	4、見直しの上縮小する	
	5、終期設定し終了	
	6、休止	
	7、廃止	

7 課題及び今後の方向性

課題	<p>事業活動に当たり、一番の問題と捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所</p> <p>開館初年度である平成29年度をピークに利用者数と収入が減少している。</p>
今後の方向性	<p>上記課題を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか</p> <p>令和3年度から運営方式を指定管理へと変更し、利用者数や収入の増加、サービスの向上を図っていく。</p>